

資料8-3-1

貸金業制度等に関する懇談会資料

2005. 12. 08

(株)生活行動研究所

所長 西ヶ谷 葉子

1. 消費者金融利用者の属性(平均借入額、性別、所得、職業など)

性別

・・・男性=71.7%、女性=28.3%

年齢

・・・平均39.0歳

(20代と30代が若干多いが、50歳以上も25%以上を占める)

未・既婚

・・・未婚=45.0%、既婚=52.0%

職業

・・・①自営商工・サービス=24.0%

②労務・サービス業=19.1%

③事務系勤務者=18.4%

④管理職(課長以上)=12.0%

⑤パート・アルバイト=10.5%

消費者金融会社の利用件数

・・・平均2.8社

消費者金融会社の利用年数

・・・平均4.0年(10年以上利用者=10.4%)

1回当たりの利用金額

・・・①1万~3万円未満(19.0%)

②5万~10万円未満(15.3%)

③3万~5万円未満(14.8%)

④40万~50万円未満(10.2%)

⑤25万~30万円未満(7.0%)

平均=18.9万円

2. 消費者金融を認識した契機(消費者金融を知った背景など)

消費者金融会社の存在を知ったきっかけ

- ① テレビのコマーシャル・・・61.3%
- ② 新聞の広告・・・37.7%
- ③ 街頭で配っている宣伝入りのティッシュ・・・30.4%
- ④ ビルなどの看板・・・22.4% (複数回答)

最初に利用する店を選んだ理由

- ① テレビのコマーシャルを見て・・・33.4%
- ② 新聞の広告を見て・・・20.8%
- ③ 友人・知人が利用していたから・・・15.7% (複数回答)

3. 消費者金融の利用目的

～長期間(例えば3～5年間)利用している人は返済自体が目的になっていないか～

借入目的

①交際費・付き合いのための資金・・・40.5%

②国内旅行・レジャー・・・21.7%

③小遣いの補填・・・19.5%

④生活費の補填・・・19.0%

その他、借入金の返済・ギャンブル・・・1割程度

(複数回答)



利用年数との相関関係はない

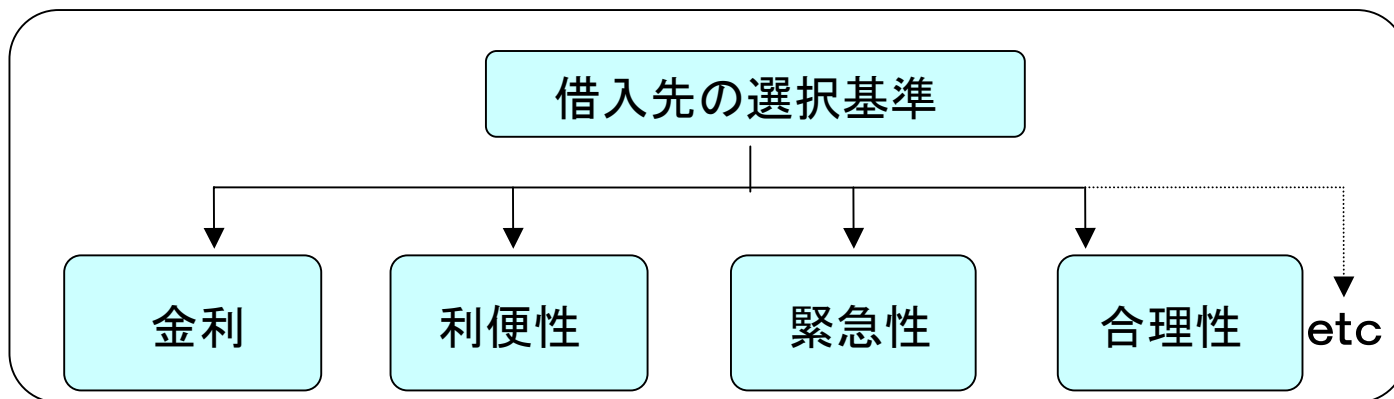
4-1. 金利に関する意識

～高くてもかまわない、利便性優先、短期利用なので合理的など～

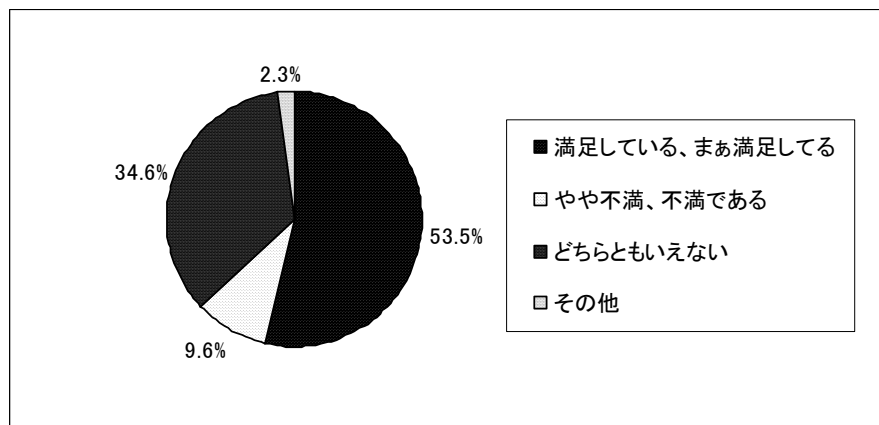
利用者の選択基準



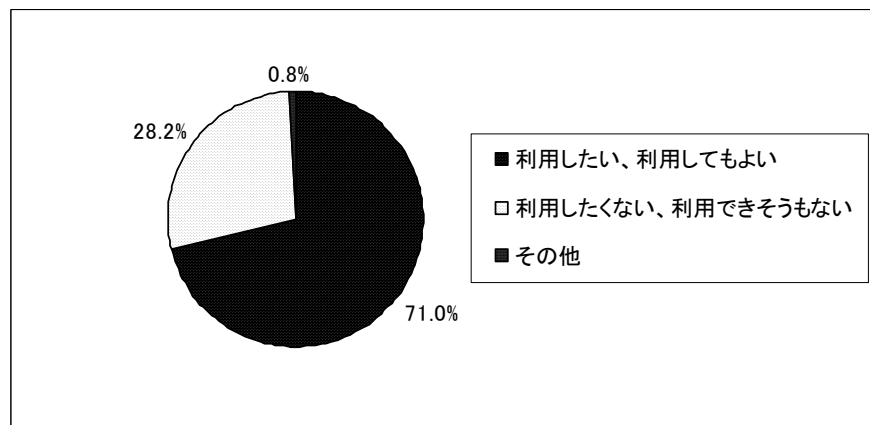
金利はできるだけ低いほうがよいが、
それ以外にも選択要因はある！！



消費者金融会社の利用満足度



今後の利用意向



4-2. 金利に関する意識

～高くてもかまわない、利便性優先、短期利用なので合理的など～

「利用したい」「利用してもよい」
と答えた理由

- ①困っていたときに借入できたから
59.4%
- ②社員の対応が良いから
26.5%
- ③利用しやすい場所にあるから
25.3%
- ④馴染みのある会社(店)だから
20.8%
- ⑤会社が信頼できるから
15.0%

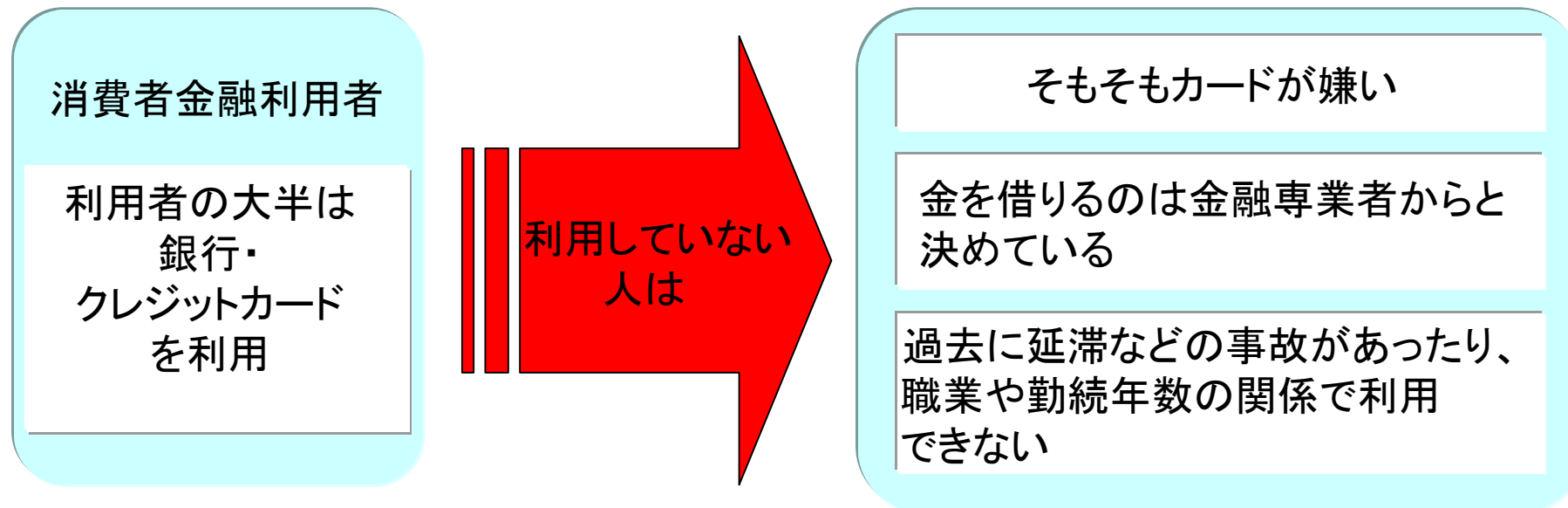
「利用したくない」「利用できそうもない」
と答えた理由

- ①これ以上借りると返済が大変だから
64.5%
- ②金利が高いから
38.7%
- ③審査が厳しくなって、なかなか貸してもらえないから
9.4%

(複数回答)

5. 銀行借入やクレジットカードなどは利用していないのか。 利用していない場合の理由は

借入の目的によって、利用先を選択



消費者金融会社以外からの利用状況

	(%)
銀行	24.1
銀行系クレジットカード	36.6
信販会社	29.5

消費者金融会社以外のカード保有状況

	(%)
銀行系クレジットカード	50.1
信販系クレジットカード	26.2
流通系クレジットカード	17.9
銀行カードローンカード	14.5

6-1. 多重債務に陥る人の理由

～インタビューから見える傾向～

カウンセラー （日本クレジットカウンセリング協会など）

多重債務の主な原因・・・生活費（若い人の傾向が強い）、遊興・交際費、ギャンブル

返済困難の主な原因・・・失業、減収など（フリーター等が考えられる）

相談者のパターン

基本的な生活資金

若い人

就職までのつなぎ資金

年配者

収入減（賞与カット等）

借金依存的な人（ホワイトカラー系にみられる）

クレジット・信販利用

支払金不足

消費者金融

支払困難

ヤミ金

多重債務に陥る人の特色

その人のパーソナリティに関わる部分大きい

6-2. 多重債務に陥る人の理由

～インタビューから見える傾向～

弁護士

(弁護士会の債務者相談を担当している弁護士など)

多重債務の主な原因・・・ライフイベントによるもの(子供の進学等)、生活レベルの維持

返済困難の主な原因・・・リストラ・減収、住宅ローン(中高年に高い傾向)

相談者のパターン

ライフイベント、生活レベルの維持

銀行＝教育ローンのみ

生活費

消費者金融

借増し、返済困難

ヤミ金

リストラ・減収

住宅ローン

ゆとり返済、返済額増

消費者金融

借増し、返済困難

ヤミ金

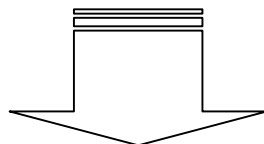
多重債務に陥る人の特色

多重債務は、債務総額と本人の収支のバランス、一概に同一視できない

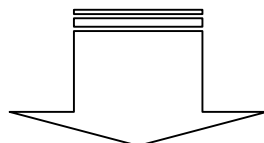
7. 多重債務者数の推計、利用者に占める割合

多重債務者の定義

「本人の返済能力を超えて、複数の業者から借金をしている債務者」



- 返済可能であれば、何件借入があっても多重債務ではない
- 2社からの借入でも、返済能力を超えれば多重債務になる

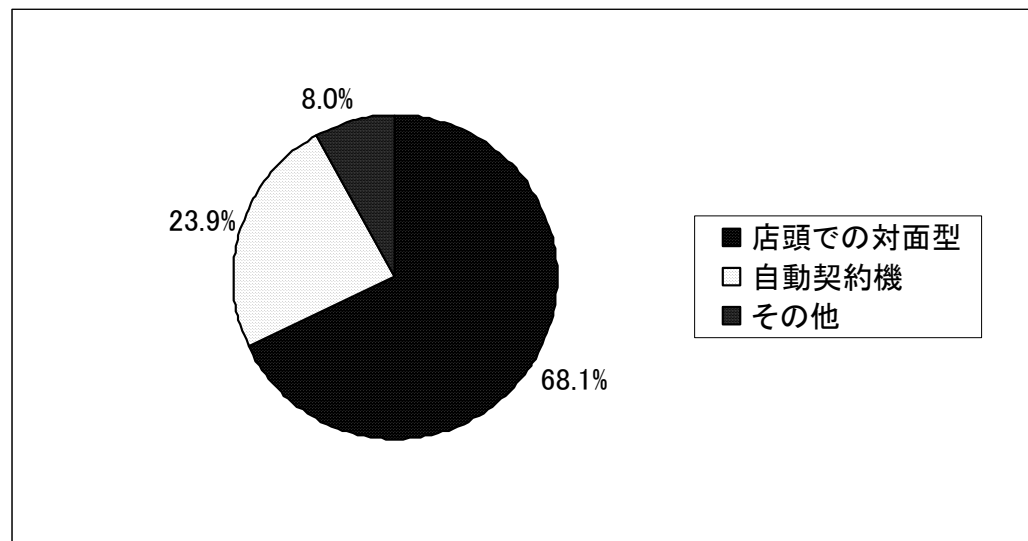


多重債務者の推計は困難

参考：各地の簡易裁判所に申立てられた「支払い命令」の件数と、個人信用情報機関に登録された事故情報の数値から多重債務者は全国に「150～200万人」、あるいは「75～100万人」と推計される説もある。

8. 借入方法、ATMと対面式の比率

消費者金融会社での申込方法（生活行動研究所調査）



○小規模の企業・・・自動契約機(ATM店舗)を導入していないところもある

電話による申し込みを中心としている会社もある